



●色彩教材を起点として

先日、「第1回色彩教材ギャラリートーク」のイベント情報が展開されました。

広い意味でのオリジナルの色彩教材出展を心よりお待ちしております。聴講につきましても、お気軽にお申込みいただけます。

色彩教材は、例えば、東商カラーコーディネータ試験や色彩検定などの資格試験に向けたもの、XYZ表色系やCIE L*a*b*色空間などをよりわかりやすく解説したものが一例として考えられます。情報化に伴い、デジタルクリエーションにかかる色彩教材なども普及し始めているのではないかと感じられます。色彩教材を開発することで「色彩教育をより普及させたい」「難しいことをわかりやすく伝えたい」など、コンセプト次第で「色彩教材に化ける」のではないかと考えられます。

案外、日本色彩学会の外にも「色彩教材のシーズ」があるかもしれません。日本色彩学会の歴史と伝統を守りつつ、新しい風を送り込むことが大切であると考え、そのひとつの試みが「第1回色彩教材 Gallery Talk」というひとつの企画となり、非会員の方にも、お気軽にご参加いただける機会となっています。(吉澤陽介 主査より：028)

●学会員募集の宣伝キット作成を提案

学会員の新規入会の状況がはっきりしないが、喜ぶべき状況であるとは思えない。

学会として行うべきことは、学会のメールニュースを使って、入退会の推移と現状、そして将来の予測を学会員に知らせ、入会勧誘に協力してもらうことである。

そのために、全国大会や、各研究会のイベントにおいて配布できる印刷物の「学会入会勧誘キット」と詳細なWeb型キットの複合型の勧誘情報ツールの制作と配布であろう。

学会員となることによって、どのような知識や能力が身につく、活躍の分野が広がるかの夢を伝えるとともに、学会の過去の歴史や実績、発行してきた学会誌や、書籍、先輩の業績などを伝えるとともに、これからの発展を示唆する、学会、研究会の活動なども含むイベント会場でも勧誘活動が直接実行できる学会入会申込書、研究会入会申込書などを伴った配布用のキットを作成し、簡単に現学会員からも、オンライン用のシステムとして使用できるものを、理事会で考えて欲しい。

更に、SNSは金儲けの手段としても使われている。学会が蓄えている知識やデータを使って学会の運営費を稼ぎ出す方法に衆知を集めて欲しいと無力の老人は思う。(永田泰弘)

「源氏物語の色」を書き終えて

「源氏物語」は平安時代中期に書かれた物語で、呼び名がある人物だけで400人を超え、主要な人物だけに絞っても60人以上が登場する90万字を超える大長編です。

「色」を表す言葉は、70種以上、その記述は約500箇所におよびます。

その色彩表現に興味を持ち、「源氏物語」を読み進めるうちに次第に物語の展開そのものに魅力を感じる様になりました。

物語の舞台である平安時代と現代では、生活様式や社会も大きく異なりますが、度々、登場人物に共感し、“悲しい”、“美しい”など、人の心の動きの根本は千年の時を経ても変わらないのだと感じたことも、この物語に引き込まれた大きな要因です。

渋谷典子氏が執筆されていた「源氏物語の色」を帖ごとに紹介するという形式を引き継ぎ、全五十四帖のうち、33帖(藤裏葉)～54帖(夢浮橋)までを書かせていただきました。何度も各帖を読み返し、紹介する場面を選ぶ中、平安時代の色彩感覚の豊かさや著者の色彩表現に改めて魅力を感じました。

この後は、「紫式部日記」に書かれている色彩表現についても、色彩教材研究会通信に書かせていただく予定です。(平山和香子)